

調査団報告書

No.148(2025.3)

調査内容

明治の初めごろ、名古屋に「名古屋坂道の三寒（さんさむ）」という寒くて有名な坂道を指す言葉があったそうです。どこの坂道なのでしょう？

調査手順

名古屋にも坂道はたくさんありますが、寒さで有名な坂っていったいどこでしょう……。

ひとまず『新修名古屋市史』で「名古屋坂道の三寒」という言葉が載っていないか調べてみます。すると、『第9巻』p.29に「名古屋には明治の初期ごろまで、サンサム（三寒）という言葉があった。この地方の坂道のうち、枳殻坂（東区）、沢の観音の坂（熱田区）、吹上坂（千種区）を「名古屋坂道の三寒」とよんでいた（『名古屋の坂道』）」という記述を発見!!

どうやら『新修名古屋市史 第9巻』は『名古屋の坂道』という資料を参考にして、この部分を記述しているようです。では『名古屋の坂道』は図書館にないのか調べてみると、『生きている名古屋の坂道』という資料が見つかりました。それぞれの坂の場所について次のような記述がありました。

- ・枳殻坂 p.180-183「東大手門を出て、三之丸の外堀にそって、約一五〇メートル北進するところから坂道となる。これが、枳殻坂と呼ばれた坂である。」
- ・沢の観音の坂 p.270-271「沢の観音とは、熱田区新尾頭町の、妙安寺の境内にある観音堂からこの名称ができた。」
- ・吹上坂 p.272-275「吹上坂の南の御器所ヶ丘の高台に、愛知工業学校や名古屋高等工業学校（注：現在の名古屋工業大学の前身のひとつ）が出来た。」

調査結果

「名古屋坂道の三寒」とは「枳殻坂」「沢の観音の坂」「吹上坂」の3つ!

枳殻坂は現在の名鉄瀬戸線東大手駅と愛知県立明和高校の間の坂、沢の観音の坂は熱田区にある妙安寺の北側の坂、吹上坂は名古屋工業大学の北側の坂と考えられます!

今回の調査で使った資料

『新修名古屋市史 第9巻』 新修名古屋市史編集委員会／編 名古屋市 2001
『生きている名古屋の坂道』 岡本柳英／著 泰文堂 1978

